

産業科学研究所

I	研究水準	研究 18-2
II	質の向上度	研究 18-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、平成 16 年度から平成 18 年度の 3 年間で 1,467 件の論文及び 67 冊の著書が発表され、教員一名当たりの論文数は毎年 4.5 件となっている。3 年間での受賞件数も 69 件となっている。国際会議シンポジウムを平成 16 年度から平成 19 年度で 52 回開催し、特許出願数は、平成 16 年度から平成 18 年度で 147 件となっており、産業界への技術移転も 70 件に達している。外部との共同研究、所内分野融合研究は多く、研究資金の獲得状況も高い水準であることなどは、優れた成果である。

以上の点について、産業科学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、産業科学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面においては、長期的な視野で新産業の創出を目指すシーズ研究では、ATP 合成酵素を構成する回転分子モーターの反応スキームの完全解明、化合物半導体表面の光誘起原子構造変化の原子レベルでの解明などで優れた成果が上げられている。次世代の産業を創り出す戦略的研究には、計算機ナノマテリアルデザイン、光

応答性の DNA の分子糊の創製、カーボンナノチューブを用いる電気化学反応電極の開発などで優れた成果が上がっている。社会、経済、文化面においては、優れた研究業績として、現産業を強化するニーズ研究として、人工物の機能表現モデル表現ツールの開発と実用化、温度安定波長半導体レーザーの実現等があげられることは、優れた成果である。

以上の点について、産業科学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、産業科学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 3 件、「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 2 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。